

ライチョウの展示施設を用いた飼育及び普及啓発の推進について

(公社)日本動物園水族館協会生物多様性委員会

ライチョウを飼育している園館では以下のとおり生体展示に取り組み、保護増殖事業として普及啓発に関する取り組みを実施した。

1. 個体展示

(1) 展示個体

展示園館	血統登録番号	性別	孵化日	備考
東京都恩賜上野動物園	N39	オス	2017年7月14日	夜間収容
富山市ファミリーパーク	N23	オス	2017年6月17日	夜間収容せず 2部屋に各1羽ずつ展示
	N41	オス	2017年7月13日	
市立大町山岳博物館	N30	メス	2017年7月2日	夜間収容せず
那須どうぶつ王国	N25	オス	2017年6月21日	夜間収容せず 2羽(つがい)で展示
	N43	メス	2017年7月23日	
いしかわ動物園	N46	オス	2018年6月13日	夜間収容 2部屋に各1羽ずつ展示 3羽の中から交替で2羽を展示
	N47	オス		
	N48	オス		

(2) 展示開始日

2019年3月15日(金) [那須どうぶつ王国は、3月16日(土)]

(3) 展示状況

① 恩賜上野動物園



②富山市ファミリーパーク



③大町山岳博物館



④那須どうぶつ王国



⑤いしかわ動物園



2. パネル展示及びイベント

(1) ライチョウの生態・生息環境及び保全取組の紹介

ライチョウの生態的特徴や生息環境及び、その現状、生息域外保全および生息域内保全の取り組みについて伝えた。

- ・ 解説パネルの設置及び映像モニターでの動画の放映
 - ・ クイズラリーなどのイベントやガイド
- 環境省で作成したポスターの掲示やリーフレットの配布



クイズラリーの様子（いしかわ動物園） 掲示した案内およびポスター（那須どうぶつ王国）

(2) ライチョウの保全に関するシンポジウムや講演会

① ライチョウ基金シンポジウム 2019「ライチョウの未来と動物園の役割」

主催：富山市ファミリーパーク

日時：2019年2月1日

概要：松田勉氏（富山雷鳥研究会）による「富山のライチョウを守るために」、及び牛田一成氏（中部大学創発学術院）による「ライチョウの野生復帰に向けて」の基調講演と、生息域内および動物園での保全の取り組みについての報告や、「ライチョウの未来と動物園の役割」と題した総合討論を行った。参加者は約200人。



②ライチョウ公開記念特別講演会「ライチョウを守るーここまでわかったライチョウの生活ー」

主催：大町山岳博物館

日時：2019年3月17日

概要：小林篤氏（東邦大学理学部）により、野生のライチョウの生態で新たに分かったことや、生息域内での保全の取り組みを紹介し、ライチョウが生活する高山の状況とライチョウ保全の意義と現状を伝えた。参加者は150人。



3. 展示に向けての個体管理（馴致）

- ①3月15日の展示に向けて各園ともに2月頃より馴致を開始。広い展示室に慣れない個体もいたため、多少採食量の低下なども見られたが、徐々に食欲も回復した。
- ②展示室ガラス面への衝突事故防止のため、馴致開始前に両翼の初列および次列風切羽の一部を切って飛翔力の抑制を行った。
- ③個体によって展示場における行動に差が見られた。
- ④終日展示室に出している園館、日中のみ展示場に放して夜間はケージに収容している園館があったが、現在までの健康状態に各園ともに大きな問題は見られていない。
- ⑤観覧通路にいる来園者に対してもおびえる様子も見られず、来園者をのぞき込むようなしぐさをすることも見られた。



のぞき込む来園者に近づくライチョウ(石川)



観覧ガラス面に近づくライチョウ(富山)